

どようじや とお さんさく
～行者通り散策～

阿蘇山は古くから修験の場として三十六坊五十二庵が建ち並び、多くの僧侶が暮らしていました。しかし天正年間に廃絶されると伝えられ、その後加藤清正公の援助でももへ再興されました。それが今の坊中。「坊」とは僧侶が居住する坊舎や参詣者の宿坊などを含む全体の呼び名で、坊中にはどの坊跡が今でも多く残っています。



でんえん いちぼろ けんがく じや せいび
～田園一望見学（ほ場整備について）～

昔の田んぼは形も大きさも様々で、1つの田んぼの大きさは60位の小さな田んぼでした。また、農道は現在のように整備されてなく大型機械での作業が困難で水路は菅谷がらの用水路と排水路が一緒にあった水路でした。

雨水の水源地である黒川はカルデラ内を低い位置で流れるため、利用しにくく、地下水が豊富なため塩田化していました。よって現在の田んぼの形のようにして農道・水路・埋め込み式排水などの整備を行い、あわせて田んぼを築め、農業の近代化のために昭和45年度～平成7年度まで工事をを行い、農業経営の安定と向上を図ったのです。



いねか たいけんがくしゆ
～稲刈り体験学習～

自然によって生まれた水が蓄まって大きな流れと成って、先人の偉大な志と努力により、広大な田んぼを築いて稲を育ててきました。5月の下旬に田植えをし、4ヶ月がたち、あの小さかった稲「阿蘇コシヒカリ」が見事なまでに成長し黄金色の稲穂が揺打っています。

